

速効性と共創的側面を持つ合意形成手法

A Method of Quickly Available Consensus Making with a Side of Co-Creation

○新保 義剛・二越 文彦
SHIMBO Yoshitake・NIKOSHI Fumihiko

1. はじめに

農村計画や社会資本整備等の様々な課題への地域住民や関係者の参加意識の醸成と多様な意見の集約のため、各種の合意形成手法¹⁾²⁾³⁾が提案・実践されている。さらに、IT文化を背景に、共創プラットフォーム⁴⁾や共創型共同作業⁵⁾等が注目されている。

本発表で報告する共創型側面を持つ合意形成手法では、従来型とは異なり、異論を持つ参加者を含め参加意識を実感させつつ、イメージを共有し創作を行う。1時間程度と比較的短時間で結論・到達点を得ることを特徴とする。対象は最大50人程度である。



写真-1 A事業所での実践
参加者がカードを分類・掲出



写真-2 C国での実践(技術者)
参加者が最終集約作業



写真-3 C国での実践(農家)
非識字者がイラストに投票し意思表示

2. 従来型合意形成手法の課題

従来型の住民参加型ワークショップでは、以下のような課題が生じる場合があると指摘²⁾³⁾されるが、紹介する手法では表-1, 2に示すようにこれらの課題の解決に取り組んだ。

- 1) 異論を含む多様な意見の集約のため時間・日数がかかる。
- 2) 結論・目的を特化した企画により多様な視点からの議論が困難になる。
- 3) 総論賛成・各論反対になり、また意見対立が先鋭化する。
- 4) ファシリテータの積極的関与、声高の発言者の存在により参加意識が減退する。

3. 紹介する合意形成手法の手順

(1)合意形成に到る段階は、以下の“5ステップ”とする。

テーマの印象 → 実現のための手段・手法 → 課題・問題点 → 解決法 → 結論・到達点

ステップ1と2, 4と5は敢えて似た設定とし、デルファイ法⁶⁾による集約を目指す。

(2)ステップごとにA4の用紙を4分割したカード(7.5cm×21cm)に参加者の考えを1~3単語で、匿名性確保のため黒1色のサインペンを使い、後ろからも見えるよう大きく記入してもらう(多様性確保のため1人最低3枚提出。回収は裏向けで匿名性を確保)。

(3)集めたカードは、同類同種に分類、まとめた束の一番上に代表するカードを乗せてホッチキスで止める。カードの束は、壁に張った大判の紙にテープで掲出する。掲出する位置は、長期と短期、自力達成可能と外部援助必要、個人と組織等の対立軸を意識する。参加意識を実感させるため、参加者自身がカードを整理・分類・掲出する(写真-1, 2, 3)。

日化エンジニアリング(株) NIKKA Engineering Co., Ltd. 【キーワード】農村計画、合意形成、IT

表-1 従来型との手法の相違 Difference from the Conventional Method

項目	紹介する手法	従来型 ²⁾
進行	<ul style="list-style-type: none"> 参加意識実感，多様性や匿名性に特に配慮 ファシリテータはアドバイス程度 	<ul style="list-style-type: none"> 班内での意見交換，アイデアの具体化 ファシリテータの積極的な関与
成果集約	<ul style="list-style-type: none"> 新たな気づきを重視した創造性に重点 解決への自助努力と外部支援の度合い，短期と長期等の対立軸を明確化。優先処理事項へ意識醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテータ（または参加者の代表）が，場合により分類軸設定や地図化しつつ意見集約。意見の共有化可能
長所	<ul style="list-style-type: none"> 少数意見を取込み，展望や方向性の明確化が可能 参加者の積極的な関与とステップアップの明確化で参加意識実感。短時間処理で緊張感維持 	<ul style="list-style-type: none"> 異論があるような事業や取組についても，目的意識を持った明確な意見集約が可能 ファシリテータの進行管理で効率的運営
短所	<ul style="list-style-type: none"> 反対者を説得しての施設整備や事業実施という具体的で明確な目的達成には不向き 	<ul style="list-style-type: none"> 総論賛成，各論反対のおそれ 異論の説得や意見集約に時間が必要

表-2 紹介した手法の実践例 Sample of Practice of the Proposed Method

参加者	西日本のA事業所職員	B市の国際NPO	C国の灌漑技術者	C国の灌漑受益農家 ¹⁾
テーマ	仕事と生活のバランス	D国での活動方針	灌漑農業推進方法	地域の将来
特徴	広範な考え共有，新たな気づきに効果。効果のある解決法も明確化。日頃の不満を吐露	幅広い年齢層参加。執行部や方針への意見表明が積極的で極めて高い関心	参加意識が徐々に向上。最後には参加者自身による意見集約。優先順位明確化	非識字者。ステップ1,2はイラスト使用，3-5はスタッフ聴取。女性の積極的参加
集約した意見	仕事と生活を意識した区分，情報共有等の共感的意見が多数	現拠点での活動を重点にするものの，他地域への展開も検討	技術者の技術能力向上が重要，人材・予算の重点配分，要員不足等	電気導入，医療，教育，野菜栽培，健康，市場出荷等
創造性新鮮味	新鮮で参加者全員の創造的共同作業の実感	方針への賛否との展開で創造性は限定的	自己の能力向上は自助努力という意見は新鮮	日常に根差した意見。新鮮な感覚共有
課題	少数意見に配慮し，考えの絞り込みは行わず総花的意見集約	異論の扱いに苦慮。集約に手間取り時間オーバー	最後は多数決。現状への不満吐露，外部の支援が必要なものが多数	灌漑導入・新規作物取組への賛意は明確だが優先度は中位

4. おわりに

ペンとカードを使うようなアナログ型から，現在ではITの進化によるGoogle SitesやGoogle Formを使い意見を集約⁴⁾する手法の実用化が近づいている。これまで蓄積されてきた各種の意見集約のための手法の成果や特徴を生かしつつ，多様な場面で，より広範な参加者・関係者が共感を持てる合意形成へのITの応用が待ち望まれる。

参考文献

- 1) 新保義剛：非識字者を対象とした合意形成，農村振興 第740号，pp.26-27 (2011)
- 2) 安中誠司也：円滑な意見集約を行うためのカード展開型ワークショップ手法，ARIC第96号，pp25-29 (2010)
- 3) 土木学会構造工学委員会：合意形成・評価手法に関する研究小委員会報告，pp.13-44 (2003)
- 4) 山口直人他：大学院実習科目における共創プラットフォームの研究と構想，知識共創第7号，V15-1 (2017)
- 5) 小宮香織他：共創型共同作業のための合意形成支援システム，日本感性工学会研究論文集，Vol.7No.4，pp675-684 (2008)
- 6) 福与徳文他：デルファイ法による農村資源管理の将来予測，農土誌75(2)，pp.29-34 (2007)